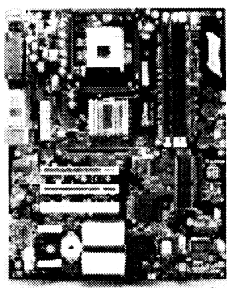
蝕槻ノ木隆のPC実験室草

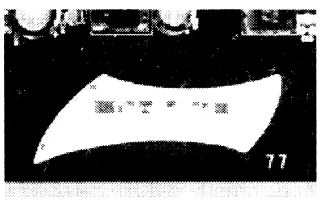
真空管アンプ搭載マザー「Aopen AX4B533-TUBE」を試す

今年6月のCOMPUTEX TAIPEIでAOpenのブースに展示され、その発想の奇抜さで話題を集めたのが「AX4B-533 Tube」である。一見通常のアンプに見えるが、オーディオのアナログ出力に真空管を利用したアンプ搭載するという、非常に「アナログ」なマザーボードである。その効果はいかほどなものか、という事で早速ためしてみた。

■マザーボード上に真空管アンプを実装

AOpenから登場した些塑は、同社製品である呉越(日本では未発売)をベースとし、サウンド出力部に真空管アンプを搭載したPentium 4/Celeron向けマザーボードである。真空管を使ったオーディオアンプといえば、懐かしさを覚える読者もおられるだろうが、広く普及した半導体アンプや、最近主流のデジタルアンプには無い「味」を求めて、今も-部のオーディオマニアの間では使われているし、そうした層を狙った製品や組み立てキットも今なお存在している。本製品では、PCIスロット3本とCNRスロットをAX4B-533から取り除き、空いた場所に真空管アンプを実装。AC 97 Codecのオーディオ出力をここに直結することで、「味のある音声出力」ができることをウリとしている。





AOpenのAX4B-533　デジタルとアナログの融合
Tube。上部3分の2をを成功させたことを示す
見れば普通のATX「Tube Sound
マザーだが、下部がTECHNOLOGY」のエンブ
ちょっと異様な光景　レム

【追記】宰相沖?にエこ/ブL/ムジー)数字がシリア;v-rンバー・ -一であるという記赦があォ9まLたが、読者から同t:/
普(i)ボート、を持っているというご教示がありましたorぐ削除いたしノました、ノ

なお、本製品は現在では入手がかなり困難となっている。それもそのはずで、本製品はAOpenの塵塵生企で「100枚限定予約販売」という形態を取られたからだ。本来は日本市場に投入するつもりがな